

Economy



Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

COLORS
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100th

KAWASAKI
SDGs
川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

SDGs

経営企業事例集



Community



Environment



SDGs経営を目指す皆様へ



これからSDGs経営に取り組みたいと考える皆様に向けて、実践のヒントとなるような取組を行う企業のSDGs経営事例集を作成しました。この事例集では、社会・環境・経済の全ての要素に配慮しながら、各要素において特筆する取組を行う企業を1社ずつ取り上げ、具体的なSDGsに関する取組を紹介しています。自社のSDGs経営にご活用ください。

CONTENTS

企業事例紹介

社会 01 株式会社コネクトアラウンド 02

対談 株式会社コネクトアラウンド × ダンウェイ株式会社 04

経済 02 株式会社SKLO(スクロー) 06

環境 03 日本ダスト株式会社 08

川崎市のSDGsサポート施策 10

本ガイドはHPから
ご覧になれます



取り組むテーマ

Community

社会

地域と連携しパートナーシップによりビジネス形成

SDGsの取組で社会や人をつながる

コネクトアラウンドは、農業分野でのテクノロジーと異業種プロフェッショナルのアイデアを融合させた新たな農業ビジネスを構築し、ダイバーシティ&インクルージョンの実現と地域の障害者雇用の促進に取り組んでいます。



代表取締役 浅井 司さま

#01

企業事例

株式会社コネクトアラウンド

- 創業：2022年4月1日
- 神奈川県川崎市中原区新城1-12-14
(※FUN EAT MAKERS武蔵新城)
- 事業内容：農産物および食料品の生産・加工・販売／レンタルワークスペースの運営／飲食業／ブランディング・プロモーション
- 代表取締役：浅井 司
- 従業員数：13名

※FUN EAT MAKERS武蔵新城
リーフ野菜などの水耕栽培や2次加工品の製造、販売、飲食事業を行う6次化農業ビジネス&実習施設

室内でできる
水耕栽培の誕生

農業分野でプロフェッショナルとなる人たちが活躍することを通して、農業全体の振興や経済発展など付加価値の提供を目指すことが、自社の事業の根幹にあります。

農業の現場では、経験値や天候、自然災害などの影響で収入が安定しないためなかなか継続が難しい、後継者などの担い手が減少しているといった課題があります。その課題を解決するために、一年を通して収穫できる室内空間での水耕栽培を始めました。

農業はそもそも環境負荷が高いと言われます。化学肥料はCO₂を排出して製造され、植物が吸わなかった分は、地下水の中に流れてしまいます。一方、水耕栽培では化学肥料の使用が圧倒的に少なく、水も循環して使っているため、環境負荷を減らしています。また、リーフレタスなど葉物野菜は太陽光で

なくても育ち、すべて食べられるので生産効率が良く、1カ月ほどで収穫可能です。この取組を促進するため、生産した葉物野菜をサラダやお弁当、スムージーなどに加工し、販売する、6次化農業施設「FUN EAT MAKERS」を開発しました。この施設を持続可能なビジネスとするため、福祉施設への昼食提供や企業へのケータリング、テイクアウトなどの販路開拓にも取り組んでいます。

人の能力は
無限の可能性がある

自社の事業のもう一つの根幹は、雇用におけるダイバーシティ&インクルージョンの取組です。自社には「人の能力は無限の可能性を秘めている」という経営理念があります。人の能力はこれまでの経験やキャリアに関わらず、さらなる可能性があるはずです。私たちの事業で何ができるかと考えた



写真左より、6種類の野菜がひとつになったリーフパック。リーフを使ったサラダ、果物にスパイスをプラスしたフレッシュスムージー（リンゴ&白きくらげ、レタス&キウイ）等、店の人気商品

時、障害がある人たちの可能性を引き出す取組ができるのではないかと思います。

実際に、障害がある人たちがサポート器具を使うことで、農業法人で戦力として働く事例もあります。弊社の水耕栽培のマニュアルもその人に応じたやり方に書き換えることで業務ができるのではないかと思います。「ユニバーサルワークフロー」を開発しました。



ユニバーサルワークフローで 業務ミスなく作業進行

ユニバーサルワークフローとは、障害者の潜在能力を可視化して職務への適性を判断し、実際に水耕栽培の手順を言葉や文字ではなく、図や色分け、写真を使って分かりやすくマニュアル化したものです。

ユニバーサルワークフローを完成し、本格的にスタートするまでには9カ月ほどかかりましたが、その効果は驚くほど。障害がある人たちも能動的に仕事ができることが分かり、業務のミスも無くなりました。

私たちも業務の棚卸しをきっちりし

たことで、言わなくても分かると思い、そのままにした結果、行き違いが生まれミスが起きたことなど、マニュアルで曖昧にしていた部分にも気づかされました。ユニバーサルワークフローとは、障害がある人だけに限らず、その業務をミスなく能動的に行うためにも欠かせない手順書だと思います。

また、ユニバーサルワークフローの導入は、野菜の品質向上にも結びつき、自社の商品に関するクレームが減少したことの要因にもなっていると感じています。

今後の目標は フランチャイズ化

現在、「FUN EAT MAKERS 武蔵新城」の施設では、障害がある方の雇用は1件のため、将来的には増員していきたいと考えています。また、これからは野菜の生産だけでなく、お弁当製造の業務にもユニバーサルワークフローを導入しようと考えています。

自社の経営目標としては、この形態を普及させていくために、「FUN EAT MAKERS」のフランチャイズ化を進めていこうと考えており、今後はフランチャイズに加盟してくださる企業を獲得していくことが課題と捉えています。

障害がある人たちも
能動的に仕事ができる

リーフパックの説明も手書きでかわいらしく紹介



「FUN EAT MAKERS」のスタッフが水耕栽培野菜を確認の様子

Message

SDGsを活用したい企業へメッセージ

これまでの歩みを顧みると、持続可能な市場分野の調査、自社商品やサービスの競争優位性、人手不足の中での人材確保やコスト削減の方法など、企業として通常行う経営戦略を実践していたら、結果としてSDGsの目標に当てはまっていたというのが実感です。社会問題に向き合い、その解決策への取組をビジネスとして継続してきたことが、SDGs経営として皆様に評価されてきたのではないかと考えています。



ユニバーサルワークフローにより、障害がある人たちが戦力となって活躍してくれています！



障害がある人たちにとっても、働くことにチャレンジできる場が増えました！

株式会社コネクトア라운드

代表取締役 浅井 司さま

ダンウェイ株式会社

代表取締役 高橋陽子さま

ユニバーサルワークフローを開発！ 農業で障害者就労を支援

新たな農業ビジネスを推進するコネクトア라운드と、障害者の就労支援を行うダンウェイが共同開発した「ユニバーサルワークフロー」。現在いかなる価値を生み出し、そして次なる夢とは？コネクトア-roundの浅井社長とダンウェイの高橋社長で熱く語り合っていました。

パートナーシップのきっかけとは

浅井 自社の事業「FUN EAT MAKERS 武蔵新城」で障害者雇用を支援するにあたり、従来の水耕栽培のマニュアルの書き換えが必要だと考えました。というのも私たちは福祉のプロではありませんので、障害がある人たちはどのようなことが理解できて、どんなことができるのかということが分かりませんでした。そのため業務で必要なサポート器具の制作先を探していましたが、なかなか難しく…。そんな中で偶然、「ダンウェイさんにご相談してみたら？」と勧められたのです。さっそく高橋社長に会いに行き、こういう取組をしたいとお話すると「できますよ」と即答！衝撃的な出会いでしたね。

高橋 私もし浅井社長の想いにとても共感しました。農業の課題解決をしたいということ、そしてこれまで働く機会に恵まれなかった人も活躍できる場を創出できるという話

パートナー

ダンウェイ株式会社



- 創業:2011年1月4日
- 所在地:神奈川県川崎市中原区新城1-12-15
- 事業内容:障害者就労支援
(就労移行支援、就労定着支援、就労継続支援B型、自立支援)／
障害児支援(放課後等デイサービス)、
障害者雇用支援・コンサルティング、ICT事業、教育事業
- 代表取締役:高橋陽子
- 従業員数:25名

を伺い、私たちの理念と非常に一致すると確信し、初対面でガッチリと心を掴まれたのです。

私たちは障害者の就労支援を行うため、「シームレスバディ」というシステムを作っています。誰が見ても障害のある方の能力が分かるように、可視化する電子カルテ・ツールです。その仕組みを活用して、職場の環境整備をする「ユニバーサルワークフロー」を共同開発することで、より働きやすい環境作りを実現できると考えました。

パートナーシップを組むことで生まれた効果

浅井 私たちとしては、新たな農業のビジネスモデルを構築し、今まで農業に参入したことのない企業にも取り組

株式会社コネクトア라운드
代表取締役 浅井 司さま

ダンウェイ株式会社
代表取締役 高橋陽子さま

んでもらうことで、農業自体を活性化させたいという思いがあります。また、障害者雇用に関しては、ユニバーサルワークフローの開発によって、会社の中で戦力となり活躍できる人たちを育成することが目標でもありました。

高橋 私自身も農業という新しい分野に参画させていただき、一緒に歩めることに期待がありました。農業分野に特化したコネクトア라운드さんと、人の能力を引き出すことに取り組むダンウェイ。お互いの考え方が一致し、コラボすることによって、2倍以上の効果を発揮する可能性があるのではないかと感じました。

浅井 ユニバーサルワークフローを共同開発したことは、制作にかかったコスト以上の価値があると実感しています。コミュニケーションの重要性に改めて気づかされると共に、人とのコミュニケーションはすごく曖昧で、相手が自分の言ったことをどこまで理解できているか分からない。物事の捉え方は人それぞれ違うので、その前提のもとで話し合い、業務提案をしていくことが重要なんですね。これは障害者雇用に関わらず、全ての仕事の現場で導入するべきだと思っています。

高橋 実際にユニバーサルワークフローを開発するためには、まず現状のワークフローを把握しなければいけません。例えば、水耕栽培のやり方の流れを見てみると、一見、システマティックですが、実際には意外とアナログな作業がいろいろあることに気づきました。そこへユニバーサルワークフローを導入することによって、従業員の適性を判断し、それぞれの得意分野に配置することができます。一人一人の生産性が上がり、改良を重ねることで活躍できる部分は広がることが分かりました。

また、ほとんどの企業が障害者雇用で抱える問題は、指示がうまく伝わらないことです。指示の出し方が正しいかなど、コミュニケーションで工夫すべき点も今回のコラボによってより明確になりました。

ユニバーサルワークフローを次のステップへ

浅井 今、取り組もうとしている次のステップは、ユニバーサルワークフローをたくさんの企業に導入していただき、各地域にお住いの障害がある方たちが雇用される場を増やしていくことです。そこで重要なのは従業員に指導する人の育成です。ユニバーサルワークフローは説明して、実際に見ていただくことができますが、一緒に実践して定着させることが必要なのでリーダーになる人が欠かせません。

障害がある人の適性を判断し、その人が受け取れる形の



情報を提供することによって、しっかりと戦力となって働くことができる。そうした指導ができる人を育成する教育も不可欠なので、チャレンジしていこうとダンウェイさんと話し合っています。

高橋 今、私たちの事業分野は過渡期で、色々な企業で障害がある方を雇用しようという動きが進んでいますが、より重度の知的障害がある方たちの採用にも取り組んでいく動きがあります。

そうした時代にあって、コネクトア라운드さんはすでに先頭を走っています。それは他の企業から見れば、勇気をもらえるようなチャレンジだろうと思いますし、私たちも一緒にやらせてもらっていることでさらなる社会課題の解決に取り組んでいきたいですね。

今後の展望とは

浅井 この「FUN EAT MAKERS」の事業を全国に広げていくことです。まずは各地域で障害のある方たちに働く場を広げていく。そして、いずれは障害がある人だけでなく、多様な働き方を求めている人たちへと展開していきたいです。様々な働き方に合わせた雇用の提供を目指しています。

高橋 私は、重度の知的障害がある息子の存在がきっかけで会社を立ち上げました。コネクトア라운드さんの事業が全国に広がるということは、自分の意志とは関係なく、たくさんの方の力をあきらめざるを得なかった障害がある人たちにとって、働くことにチャレンジできる場が増えるということ。それはすごく夢がありますよね。私たちもその夢と一緒に追いかけてながら、全国に広めていきたいと思っています。

浅井 はい、頑張っていきましょう。今後ともよろしくお願いします！

取り組むテーマ

Economy

経済

廃棄物に新たな命を吹き込み持続可能なビジネスへ

アップサイクルで地域貢献を目指す！

SKLOでは、革製品を製造するためのさまざまな機械や技術、ノウハウ、デザインを活かして、廃材や余剰資材に新たな命を吹き込む「デザインアップサイクル」事業に取り組んでいます。



代表取締役 齊藤倫平さま

#02

企業事例

株式会社SKLO(スクロー)

- 創業：2011年7月
- 所在地：神奈川県川崎市高津区溝口5-12-3
G108MB1F(※PRODUCT BASE SKLO)
- 事業内容：皮革製品の製造請負(OEM及びODM)／
皮革製品の企画・製造・販売／
レーザークラフト体験教室(ワークショップ)
- 代表取締役：齊藤倫平
- 従業員数：4名

※PRODUCT BASE SKLO
オリジナル革製品の製作・販売を始めとする各種事業及びワークショップの実施等を行う革工房

PRODUCT BASE SKLOの
誕生

革を取り入れた“ぬくもりのある暮らし”を提案することをコンセプトに、主に4つの事業を展開しています。1つ目は自社ブランド事業で、SKLOというオリジナル製品を手がけ、革小物をメインに販売しています。2つ目はレーザークラフトワークショップの取組で、モノづくりの楽しさを多くの人に届けたいという思いから、工房やイベント、企業などでワークショップを開催しています。3つ目はOEM・ODM事業です。革製品・パーツなどの製造委託・ノベルティーなどを製作しています。4つ目は廃材や余剰資材を活用し、新たな製品を創り出す「デザインアップサイクル」事業です。

私はもともと建築設計の仕事をしていましたが、より身近な「ものづくり」に惹かれて、革素材を中心としたものづくりの拠点PRODUCT BASE SKLOを立ち上げました。アップサイクルに

関心を持ったきっかけは、私自身が育った環境にあると思います。

この工房はもともと父親がやっていた町工場で、船舶や航空機用照明の中心部を製造していました。できる限り無駄が出ないように製品を完成させる、使える部材は再利用することでコストを抑える。そんな職人としての仕事に対する姿勢とこだわりを見てきたので、自分が革製品を製作するようになって、当たり前のこととして取り組んできました。

また、父は器用な人で、ピアノの弦を工場の建物の一部に使用するなど、廃材を建物に活かしたり、家具を作ったりしていました。私も子どもの頃から父の手伝いをする中で物を大事にすることを叩き込まれました。

身近な相談から始まった
アップサイクル

初めてアップサイクルを手がけたのは、鉄道の車両に使われた床材の端材



お洒落でオリジナルのアイデアがたくさん詰まった革製品が並ぶ店内と外観

で、キーホルダーを作れないかという依頼がきっかけでした。床材にも革を加工する機械を使うことに気づき、イベント用の販売グッズとしてキーホルダーを1,000個製作しました。

その後、スポーツ現場で廃棄されるサッカーボールを有効活用できないかという相談があり、自社工房でも革のキーホルダーを作っていたので、そのデザインを提供し、協業により『KEYBALLDER』を開発しました。また、川崎市を本拠地とするプロスポーツチーム、川崎フロンターレや川崎ブレイブサンダースなどで廃棄されたボールから、キーホルダーやプレスレットを製作するワークショップを開

催しました。

アップサイクルで大事にしているのは、「ストーリー」を提案することです。鉄道の床材なら、「これは電車で使われていたものだ!」と鉄道ファンに喜ばれ、サッカーボールなら「フロンターレの選手が使っていたボールなんだ!」と感動してくれる。そうしたモノにまつわるストーリーが付加価値になって、その製品を使う人にとって大切なものになるのです。

3つのポイントから生み出す 経済的価値

リサイクルというのは、廃棄された物をもう一度原材料に戻してから素材にするので、その工程でエネルギーや負荷がかかります。一方、アップサイクルはもとの素材をそのまま利用できる、より環境負担を抑えられます。

私たちが手がけるアップサイクルでは、素材を発掘することを心がけています。イベントごとに廃棄されてしまう装飾資材や端材を回収し、それを素材として製品化する。その製品に自社工房で余った革を取り入れることもできます。資材をムダなく活用するというモノづくりの姿勢が、自ずとSDGsに結びついているのです。

経済性という点では、素材の発掘をしているので材料費がかからない、今まで培った上質なデザインを提供できるので開発費がかからない、そ



資材をムダにせずに
活用する

して製品のストーリーを提案することで付加価値を生み出す、この3つのポイントが大事だと考えています。様々な企業と協業し、持続可能なビジネスモデルとしてもっと収益が生まれる仕組みができればいいなと考えています。

こうした取組によって、「かわさきSDGs大賞2024」の経営部門で優秀賞を受賞しました。その後はさらにいろいろな企業から「アップサイクルを考えているので相談にのってほしい」という問い合わせが増えています。例えば、車のシートベルトの余剰資材を使ってカメラのストラップを作ったり、バスケットボールのプロ選手が履いていたシューズの素材を活かしてカードケースにしたりと、新しい製品企画も通りやすくなり、売上の向上につながっています。

課題となるのはアップサイクル 製品の価値を伝えること

日本人は物をムダにするのは「もったいない」という意識がある一方、捨てられてしまったものはタダ同然とい

う考えが強いです。廃材を使ったワークショップを開催すると、参加料をいただくことに疑問を持たれる方もいらっしゃいます。私たちが提供するものにはデザインや技術などの価値を加えて、参加した人に良い製品をお渡しするという自負があり、そうした意識との温度差をどう埋めていくか、つまり、アップサイクルが生み出す製品の価値を理解してもらうことの難しさを感じています。

アップサイクルの事業では、地域社会や教育機関との連携も目指しています。廃棄ボールの活用事業では、川崎市の魅力である「スポーツ」と「ものづくり」が融合します。川崎市内の小中学校や学童保育でもワークショップを行い、作ることの楽しさを体験してもらう活動も続けてきました。

私自身もアップサイクルを楽しんでいます。廃棄されるものもこんな製品に生まれ変わるのかという発見があるから、面白いんです。私は川崎で生まれ育ったので、この街にすごく愛着があります。だから、今はものづくりの楽しさを伝えることで、地域に貢献したい。この街をもっと盛り上げていきたいなと思っています。

Message

SDGsを活用したい企業へメッセージ

私 たちはSDGsを意識してやってきたわけではなく、根本にあるものづくりの姿勢が自然と結びついたような気がします。ものづくりに限らず、それぞれの分野で自分たちができることがあり、その企業だからこそ専門性を活かして取り組めることがあるはずなので、それを考えて事業に活用することがSDGsにつながっていくと思います。



合同会社肩車との協業事業で生まれたKEYBALLDER(キーボールダー) プロサッカークラブで使用されていたサッカーボールを再利用してキーホルダーに変身させた同社の人気商品

取り組むテーマ

Environment

環境

廃棄物処理は地元根付いてこそその産業

リサイクルで地域企業と環境保全を

日本ダストは、「廃棄物に新しい命を」というテーマを掲げ、産業廃棄物に新たな付加価値を生み出すリサイクルに取り組んでいます。

#03

企業事例

日本ダスト株式会社

- 創業:1970年9月
- 神奈川県川崎市川崎区鋼管通2-2-2
- 事業内容:産業廃棄物中間処理業／
コンテナシステムによる産業廃棄物収集運搬処分／
バキュームダンパー及びローリーによる
廃液収集運搬処理／プラント解体工事、清掃工事／
資源リサイクル事業
(貴金属、金属、溶剤、油、プラスチック、紙、木)
- 代表取締役:吉野建介
- 従業員数:110名



営業本部長 吉野治郎さま

リサイクル事業から生まれた
ソリューション・ネットワーク

私たちはNDKグループ全体で、産業廃棄物の収集運搬・処理、資源物の買取・売却などの事業を行っています。取引先の企業は、川崎を中心とした神奈川県内、首都圏・関東エリアに及び、製造工場の他には物流拠点や研究所、商社などがあります。

創業以来、一貫してお客さまの廃棄物に関する困り事の解決に取り組んできました。今年で創業55年になりますが、当初はゴミの捨て場に困っている、どう捨てていいかわからないという企業のニーズを受けて、産業廃棄物を安全に処理する事業からスタートしました。

その後、公害の問題が深刻になる中で、廃棄物処理の現場でも環境負荷を軽減し、リサイクルしようという風潮が高まってきました。そこで掲げたのが「廃棄物に新しい命を」というスローガンです。廃棄物を無駄にせず、リサ

イクルによって生まれ変わることで、環境保全に貢献することをテーマに取り組んできました。

リサイクル事業の流れとしては、製造工場から出る混合廃棄物を回収し、それを分別する作業から請け負っています。プラスチック、金属、木やガラスなどが混ざった状態で引き取って、重機で選別した後、さらに人の手で細かく選別してから破砕する。そうして破砕処理したものを、リサイクル・ルートに乗せるという流れになります。

プラスチックは原料に戻して、新たな製品の材料とすることや、熱で圧縮して、固形燃料にするなど、さまざまなリサイクルの方法があります。自社の処理工場では、これらのリサイクル



木やプラスチック、紙、金属、ガラス、ゴムなどの混合廃棄物は重機で選別し、その後の細かい選別は手作業で実施

につなぐまでの中間処理を一括して行っています。

また、自社のリサイクル事業の強みは、「ソリューション・ネットワーク」にあると思っています。お客さまの工場から出る廃棄物には、プラスチック以外にも有害物質、危険物、化学物質、レアメタルなど多様な種類があります。私たちは専門のリサイクル施設とのネットワークがあるので、お客さまのご要望に沿った技術を持った別企業へとつなぐ、いわば商社的な業務も行っています。企業が抱えるいかなる課題や悩みも解決できるように、ネットワークやノウハウの確立を大事にしています。

緑の下の力持ちから
SDGsの取組でイメージアップ

廃棄物のリサイクル事業を通して、CO₂削減、エネルギー使用の削減など、環境保全に貢献することに、長年にわたって取り組んできました。一方で、

私たちの業界は縁の下の力持ちとしての役割が大きかったため、そうした取組についてはあまり一般的には知られていませんでした。

それが、3年ほど前から、「SDGs」というキーワードが出てきて、徐々に注目されるようになってきました。これからは私たちがやってきたことを外部に発信しなければもったいない。そこに価値があるはずだと気づきました。そこで、『かわさきSDGsゴールドパートナー』に申請し、認証されたところ、川崎市内の学校から環境授業の依頼を受けたり、川崎ブレイブサンダースが主宰するSDGsのイベントに参加したりするようになりました。

子どもたちは学校でSDGsの授業を受けているので、大人よりSDGsについてよく知っていると感じています。例えば、「お菓子の袋がリサイクルできるか、できないか」というクイズを出し、きちんと分別するとプラスチックのボードなどに再生されることを教えると、「じゃあ、今日から分別しよう」「お父さん、お母さんに言わなきゃ！」と反応が早く、身近な問題として感じてもらえることを実感します。

また、こうした取組をメルマガやブログで配信すると、取引先の企業が見てくださり、自社のイメージアップや信頼感の向上など、ブランディングとしての効果が大きいと感じています。実際に、同業者と情報交換する中でビジネスにつながることや、自社のホームページを見た大手メーカーからご連絡をいただくこともありました。



お客様に付加価値を感じていただく
リサイクルを提案する

併せて、社内でも従業員のエンゲージメントが高まっているように感じます。普段の廃棄物処理の業務からは、自身の仕事が社会貢献につながっているか実感しづらいですが、SDGsの取組が地域や社会の役に立っていることがわかると、従業員にとっても仕事への愛着心や誇りにつながっているように感じます。

今後は、このような取組が雇用にも結び付くことを期待しています。廃棄物処理の仕事は学生に馴染みがなく、苛酷な現場というイメージが強いため、私たちの業界では新卒採用が一番の課題となっています。それでも社会貢献という視点から、この業界に関心を持ってもらえるように努めています。

地域の企業と一緒に 環境負荷を削減

今、リサイクルに関するお問い合わせは、処理の難しいものが増えていきます。背景として、廃棄物そのもので選別や破碎処理の難しいものが増えているからだと感じています。

私たちはエンドユーザーであるお客様のところへ何度も通い、情報収集した上でどこまでリサイクルできるかを検討しています。リサイクルするにあたり、課題となる点をお伝えし、処理が可能な方法を探して提案します。コストが高くなる場合もありますが、お客様に付加価値を感じていただくことで、リサイクルの実現につながります。協力会社とも話し合いを重ねながら、お互いに歩み寄って、実現できる解決策を見出していきたいと思っています。

また、自社では技術開発にも力を入れています。2023年には川崎区の夜光に新しい工場をオープンしました。日本で初めての2段式の破碎機を導入し、さらなるリサイクル率の向上を目指しています。

廃棄物処理とは地域に根ざした仕事です。運搬の距離が長くなるほどコストがかかり、CO₂の排出量も増えます。環境への配慮という意味でも、“廃棄物処理は地場産業”だと考えています。川崎でずっとこの仕事に携わってきた私たちは、これからも地域の企業と一体となって環境負荷の削減に取り組んでいきます。

Message

SDGsを活用したい企業へメッセージ

ま

ずは自社の事業に関連することから取り組むと、従業員にも分かりやすく、成果も出やすいと思います。SDGsの取組は避けては通れない課題ですが、ビジネスとうまく両立させていくことが大切だと考えています。SDGsの理念だけが先行すると長くは続かず、社内の理解も得られにくいので、自社のビジネスと共存できるもの、両立できるものに取り組むことが良いのではないかと思います。



小学校や中学校において、リサイクルや環境保全についての授業を実施



Business
Consultation

無料で専門家に相談できる SDGs経営に役に立つ！川崎市のサポート

川崎市産業振興財団

ワンデイ・コンサルティング（経営相談）

時間

1回／1～2時間程度

相談事例

- SDGs 経営の取組方法
- 新製品開発のための技術指導、販路開拓
- ホームページ作成、広告宣伝、チラシの改善
- ビジネスプランづくり、補助金申請アドバイス
- 資金繰り改善アドバイス

対象

- 川崎市内に事業所がある中小企業者、又は、川崎市内で創業される計画をお持ちの方で、次のいずれかに該当する方
- 中小企業者及び商店街または工業団体等の中小企業団体
 - その他、これに準ずるもの

申込方法

申込書に必要事項をご記入のうえ、下記あてにE-mailしてください。

※通年募集ですが、申込多数の場合に締め切ることがあります。

E-mail : oneday@kawasaki-net.ne.jp

申込書のダウンロードはこちら



公式サイト

<https://www.kawasaki-net.ne.jp/consulting.html>

川崎市 ワンデイコンサルティング

経営改善の支援を行う
短期の訪問コンサルティング
として、適切な登録専門家を
無料で派遣します。

※Zoom（オンライン）での
ご相談も承っております。



Business
Partner
Program

川崎市内でSDGs経営を始めるなら、まずはこれ！

かわさきSDGsパートナー制度

川崎市のSDGs 登録・認証制度

登録

SDGsパートナー
SDGsに取り組むことを宣言

又は

認証

SDGsゴールドパートナー
SDGsの取組を評価し今後の目標を設定

パートナーが
利用できる
施策

「かわさきSDGs大賞」
優れた取組を表彰・PR

受賞者の取組に対して、行政の各種
広報媒体やイベント・セミナー等により
PRを行います。

※パートナーになると、ほかにも補助金やセミナーなど様々な活用制度やお得情報があります。

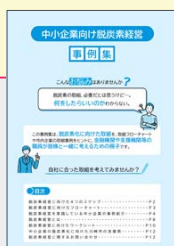
「川崎市SDGsプラットフォーム分科会」
パートナー同士の自主的な活動を支援

パートナーの提案による自主活動を
「分科会」活動の中で行政の支援を受けながら
進めることができます。

申請方法など
詳細はこちら



脱炭素経営に取り組む市内中小企業を紹介！「中小企業向け脱炭素経営事例集」



市内の中小企業が実践している脱炭素経営の事例を紹介するとともに、段階的に脱炭素経営に取り組めるようフローチャートやワークシートを掲載しています。また、川崎市の脱炭素化に向けた支援策も紹介しています。

事例集は
こちら

